

まちづくり交付金 事後評価シート
春日居町駅周辺地区

平成18年12月

山梨県笛吹市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	山梨県	市町村名	笛吹市	地区名	春日居町駅周辺地区
計画期間	平成16年度～平成18年度	まちづくり交付金交付期間	平成16年度～平成18年度		
モニタリング実施時期		事後評価実施時期	平成18年度	フォローアップ実施時期	平成19年度

1)事業の実施状況	当初計画どおり実施した事業	道路事業(市道春日居440号改良工事)、高質空間形成施設(モニュメント、街路灯)
	当初計画から変更した事業(変更した内容)	①地域生活基盤施設(駐車場・駐輪場 1200㎡→600㎡)②地域生活基盤施設(駐輪場 0→150㎡)、地域生活基盤施設(広場 0→360㎡)③高質空間形成施設(インターロッキング舗装 アスファルト舗装から変更)
	変更した理由、目標・数値指標への影響等	①用地取得にあたって賛同が得られない。②取得した用地の有効活用を行う。③周辺の施設整備に合わせたグレードアップを行う。

2)都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況	指標		単位	達成度			達成見込みの有無		効果発現要因 総合所見
	指標1	指標2		モニタリング	事後評価	フォローアップ	あり	なし	
	指標1	駅乗降客数			△			○	事業内容が利用者の利便性の向上を目指したものであり、この事業実施により乗降客数が大幅に増大することは見込めなかった。しかしながら、近隣の駅では乗降客数が減少している中で、当駅ではわずかではあるが増加している。
	指標2	足湯施設利用者数			×			○	湯施設のみで定期的に利用している人以外を集客するのは難しい。周辺施設の利便性や観光地としてのPRを行って、施設利用者の増加を目指す。

3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		数値			効果発現要因 総合所見
	その他の数値指標1	その他の数値指標2		基準年度	モニタリング	事後評価	フォローアップ		
	その他の数値指標1	混雑度【指標1:駅乗降客数の代替指標】	%	100	H14			35.1	従来、幅員の十分でない踏切付近の道で停車して送迎を行っていたため、大変危険な状況となっていた。この地点での送迎が減少したため、安全性の向上が図られた。
	その他の数値指標2	イベントの開催数【指標2:足湯施設利用者数の代替指標】	回	0	H17			4	春日居町駅周辺まちづくり推進検討委員会が中心となりイベントを開催し、地元住民と来町者との交流が図られた。来町者にはアンケートを行ったが、満足していただける結果だった。地元住民も来町者に満足していただけて大変喜んでいました。

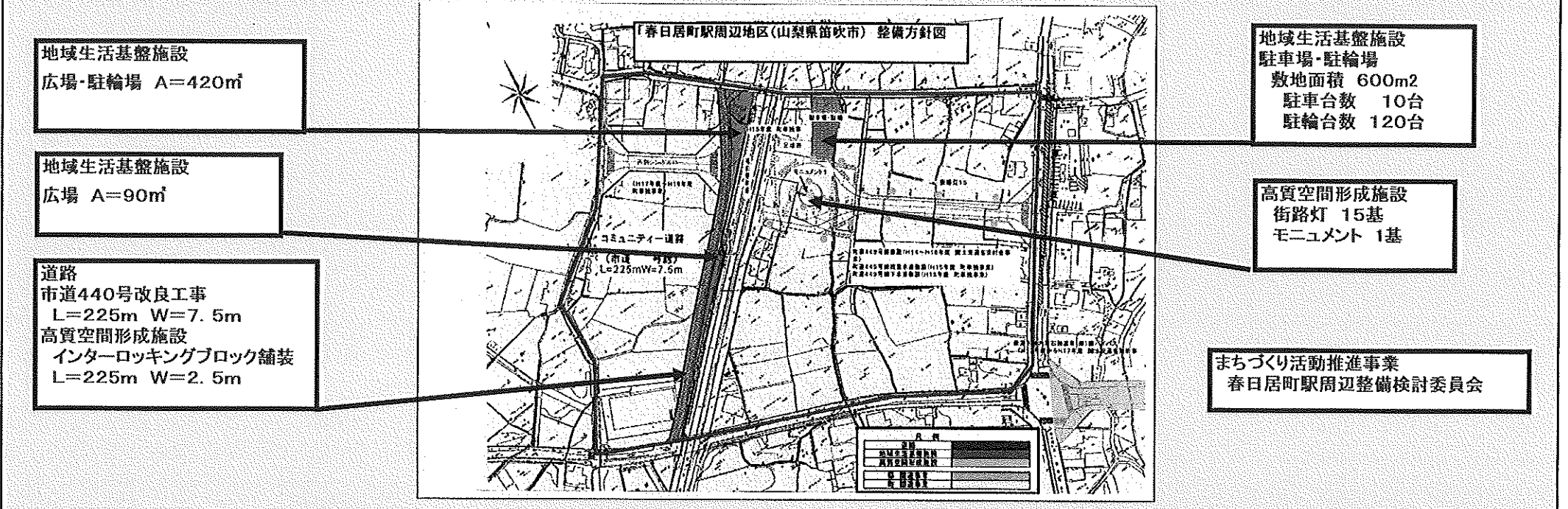
4)定量的に表現できない定性的な効果発現状況	
------------------------	--

5)実施過程の評価	評価項目	実施内容	実施状況			今後の対応方針等
	モニタリング		○	△	×	
住民参加プロセス		まちづくり推進活動事業として春日居町駅周辺検討委員会を立ち上げ、この委員会が中心となり、春日居町駅周辺でイベントの開催を行った。(4/8、7/2駅からハイキング、7/29頃の収穫体験、8/19頃の瓶詰め体験)	○	○	○	今後も住民が主体となるイベントの開催をおこなっていきたい。
持続的なまちづくり			○	○	○	

様式2-2 まちづくり交付金の成果及び今後のまちづくり

春日居町駅周辺地区(山梨県笛吹市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	「田園都市かすがい」の顔として、自然と共生できる駅周辺を整備し人々の交流拠点を創造する。	まちづくり交付金の代表的成果	混雑度(単位:%)	100(H14)→35(H18)
			イベントの開催数(単位:回/年)	0(H17)→4(H18)
			駅乗降客数(単位:人/日)	764(H14)→798(H17)



<p>今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市内外の人々の交流イベントの開催。 今年度イベントの開催を行った春日居町駅周辺まちづくり推進検討委員会の後継組織を立ち上げ、イベントの開催を継続していきたい。 ・観光地としてのPR 春日居町のシンボルである「桃」やハイキングコースになっている「兜山」のPR強化を行い、観光地として人々が訪れるようにする。 ・踏切地点での危険な状況の解消 踏切地点は、駅への出入り口となっていて、春日居町駅利用者は必ずここを通る。周辺道路は幅員が車のすれ違いがやっとというくらい狭い状況である。ロータリーや駐車場が出来、この周辺での停車数は減少しているが、停車されてしまうと、歩行者にとっては危険な状況となってしまう。このため、危険な状況の解消を目指したい。
---------------------------------	---